年頭所感

新たな年を迎えて

旭市長　米本弥一郎

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年が笑顔あふれ、幸多い一年となるよう心からお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、長期化するコロナ禍においても、新たな実りがたくさんあった年でした。

生涯活躍のまち「みらいあさひ」のまちびらきがあり、多世代交流施設「おひさまテラス」がオープンし、市の発展の鍵となる施設が稼働しました。新たなスポーツ交流の場「しおさいスタジアム」もオープンするなど、市のランドマークが続々と誕生しました。

対話による開かれた市政を目指し、二十歳のつどい実行委員会や市内の高校に通う生徒の皆さんと意見交換を行いました。若い世代の意見に刺激を受け、非常に有意義なものとなりました。

市議会におかれましては、多彩な人材で新たにスタートされました。対等の立場で議論を重ねながら、市の発展のために取り組んでまいります。

また、私ごとではありますが、アクアラインマラソン2022に参加し、30年ぶりの長距離走に挑戦したところです。今後の原動力になる体験となりました。

現在、市では千葉大学医学部附属病院と世界的な製薬メーカーであるノボ ノルディスク ファーマ㈱との協定に基づき、糖尿病対策の活動と研究をする旭市CCDプロジェクトを推進しております。市役所内の推進チームが、運動・食事の両面から糖尿病予防に取り組み、健康都市あさひの充実を図ってまいります。

あさひロケーションサービス協議会が発足し、ロケ誘致などの活動を通して「旭の発信」と「シビックプライド＝まちに対する市民の誇り」の醸成を目指します。

市や県などは、自ら治める団体と書いて「地方自治体」といわれております。市長や市職員だけでなく、市議会や関係機関、そして何よりも市民の皆さまを含めての「自ら」と考えます。本年も「チーム旭・オール旭」で、住み続けたい、住んでみたいと感じていただけるまちづくりに、全力で取り組んでまいります。

10大ニュース

1位	生涯活躍のまち「みらいあさひ」まちびらき　―「おひさまテラス」グランドオープン―
2位	旭市サッカー場がオープン　―愛称は「しおさいスタジアム」―
3位	旭中央病院アクセス道が全線開通　―緊急車両の円滑な通行と利便性の向上―
4位	未来に向けた持続可能なまちづくりに関する協定を締結　―市と旭中央病院、イオン株式会社が連携協定―
5位	旭市物価高騰対策臨時特別給付金　―旭市独自の支援金を給付―
6位	ロケのまち旭を目指して ―株式会社地域活性プランニングと包括協定を締結・あさひロケーションサービス協議会が発足―
7位	ニュースポーツを取り入れたイベントを初開催 ―あさひスポーツフェスティバル2022・日本一身近な海づくり「ぽるぽろ」―
8位	あさひ市民センターがオープン　―第二市民会館が生まれ変わりました―
9位	旭市子ども議会が開催　―小・中学生が旭市の未来を考える―
10位	旭市LINE公式アカウント開設　―生活に役立つ情報が受け取れます―

安心して住み続けたいと思えるまちづくりを目指して

旭市議会議長 **木内欽市**

明けましておめでとうございます。卯年は飛躍と向上の年。市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

また、日ごろより市政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私が市議会議長に就任してから一年余りが経過いたしました。引き続き旭市の発展のために、広く市民の皆さまの声を聴きながら、議会運営に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

さて世界の経済情勢を見ると、新型コロナウイルス感染症による影響が薄れ、景気の回復が続いていましたが、物価上昇と各国での金融引き締めにより回復ペースが鈍化しています。一方で日本経済は、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあり、景気が緩やかに持ち直していますが、世界的な金融引き締めや物価上昇などの影響に注意が必要な状況です。

このような中、本市の基幹産業である農水産業のさらなる振興や商工業の活性化、地域資源の価値を高めることによる観光の充実などが、重要であると考えます。

近年、地方議会は議員の成り手不足の深刻化、性別や年齢層の偏り、低投票率から見られる議会への関心の低下などの課題に直面しています。

本市議会では、多様な人材の議会への参画を促進するため、本会議の生中継や録画をインターネットで配信しています。また、議案審議や一般質問といった、議会の活動内容を分かりやすく掲載した「議会だより」を発行するなど、市民の議会への関心を高めるための取り組みをしております。

このほか、議会運営の効率化を図るため、執行部とともにタブレット端末や会議システム導入に向けての検討を進めています。

これらの取り組みによって、若者や女性、会社員など多様な人材が市議会議員に積極的にチャレンジして、地方分権の時代にふさわしい活力ある市議会の創造につながることを期待しています。

結びに、皆さま方のご健勝とご多幸、コロナ禍の早期終息を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

2022 旭市

9位／旭市子ども議会

7位／あさひスポーツフェスティバル2022

1位／「おひさまテラス」グランドオープン